

全国学力・学習状況調査の結果について

帯広市立明和小学校

平成29年4月18日に実施された全国学力・学習状況調査の結果が公表され、本校の結果も届きました。

全国学力・学習状況調査は、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。」「そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。」「学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。」ことを目的とし、平成19年度より行われています。小学校は6学年で、国語と算数について、主に教科の知識に関するもの(A問題)と主に活用に関するもの(B問題)で調査しています。

今年度の明和小学校は、4科目とも全道平均を下回る結果になりました。しかし、算数Aについては、昨年度より全国・全道との差を縮めています。

国語科については、A問題の「書くこと」の領域で全道平均を上回り、B問題の「書くこと」「読むこと」に課題があることが明らかになりました。

算数科については、A問題の「量と測定」の領域で全道・全国平均を上回り、B問題の「量と測定」「図形」「数量関係」の領域に課題があることやA問題の正答率が低いことから、基礎的な問題の定着が不十分であることが明らかになりました。

児童質問紙からは、「自分にはよいところがある」「学校のきまりを守っている」「いじめはどんな理由があってもいけないと思う」と答えた割合が全国よりも高いなど「自尊意識や規範意識」が高いこと、全国より「テレビやゲーム、インターネットを行っている時間が長い」、「家での学習時間が少ない」「休みの日はあまり勉強しない」「学校の授業の復習はするが予習はしない」など「学習・生活習慣」に課題があることが明らかになりました。

一方「国語の勉強が好き」「国語の勉強は大切だと思う」「算数の勉強が好き」と答えた児童の割合が全国よりも高く、学習意欲の高まりが感じられました。

以上のように良い面も多々あるのですが、課題も多くあり、基礎学力を確実に身につけさせるために、学校では、次のことを大切にして教育活動を推進します。

なお、本調査は児童の学習状況のすべてではなく、一部分を調査したものであり、成績などに影響するものではありませんので、ご理解願います。

- (1) 現状を教職員一人一人が認識し、組織として授業改善に臨む
 - ① 各種調査結果の早期分析・改善プランへの反映
 - ② チームとしての授業改善(短時間参観の実施)
 - ③ 学習規律の徹底
 - ④ 成果と課題の共有(チャレンジテストの活用)
 - ⑤ ICTの効果的な活用
- (2) 日常実践と直結した校内研究の推進
 - ① 「視覚化」「焦点化」「共有化」を視点とした授業づくり
 - ② 学習の流れの確実な定着
- (3) 繰り返し指導や少人数・習熟度別指導の効果的な活用
 - ① 基礎的・基本的な学力の保障
- (4) 特別支援教育の充実
 - ① コーディネーターを中核とした支援体制の充実
 - ② 全教職員がすべての子どもを指導支援できる体制作り
- (5) 家庭との連携
 - ① 家庭学習や読書習慣の育成・定着(「家庭学習の手引き」を活用、図書ボランティアとの連携)
 - ② 生活習慣の改善(PTAと連携した「早寝・早起き・朝ご飯」「ノーテレビデー」の取組)

科目別・領域別平均正答率

● 帯広市立明和小学校
 -▲- 北海道(公立)
 ✕ 全国(公立)

